

## AI がもたらす労働の変化

一般社団法人日本経営士会会員  
岩井社会保険労務士事務所  
岩井 美喜夫

昨今労働環境の変化は、特に人工知能（AI）をはじめとする技術の進化によって劇的に加速しています。これに伴い、今後の労働環境において私たちが注意を払うべき点多岐にわたります。そこでAIの進化がもたらす影響を中心にポイントについて考察します。

まず、AIの導入により、業務の自動化が進むことは確実です。これにより、多くの作業がAIに置き換わる可能性があります。例えば、製造業や物流業では、ロボットとAIによる自動化が進んでおり、農業や医療分野でもAIが活躍しています。こうした技術革新は、生産性の向上やコスト削減に寄与しますが、一方で雇用の変動をもたらす可能性があります。そのため、労働者は変化に対応するために新しいスキルを習得する必要があります。リスキリングやスキルアップは、キャリアを維持する上で重要な要素となるでしょう。

次に、AI技術による監視や評価システムの導入が進む可能性も考慮に入れる必要があります。これまで目視や人による判断に頼っていた評価や管理が、AIによってより精緻に行われるようになると、従業員はその透明性と公平性について強い影響を受けることになるでしょう。これにはデータのプライバシーやセキュリティの問題も絡んできます。AIが日常の業務を監視する一方で、そのデータがどのように扱われ、どのような意思決定に用いられているか、労働者には説明責任が求められることがあります。このため、企業はプライバシー権を守りつつ、透明性をもったデータ運用を行うことが求められます。

また、AIの導入により生じる仕事の質の変化も注視すべき点です。多くの業務が自動化される一方で、それに伴って創造性や人間性を要するタスクが重要視されるようになります。人間ならではの感性や判断力が必要とされる仕事が増えるようになるでしょう。そのため、労働者はAIと協働して業務を進めるスキルや能力を培うことが重要です。AIを活用していかに自分の仕事の質を向上させられるかが評価される時代になるかもしれません。

さらに、労働時間や働き方にも変化が訪れるでしょう。AIにより業務効率が向上することで、労働時間の短縮やフレキシブルな働き方が可能になるかもしれません。在宅勤務やスキルベースのプロジェクト単位での仕事が一般化する可能性もあります。その際、自分自身で効率よく時間を管理する能力や、異なる環境でのチームワークが求められるようになります。加えて、AIの倫理的側面や社会的影響についても考慮が必要です。AIの判断が必ずしも倫理的かつ公正であるとは限りません。AIによる意思決定が差別や偏見を助長してしまうリスクがあります。そのため、AIに依存するシステムを構築する際には、それが人間に及ぼす影響を慎重に評価する必要があります。この点に関しては、企業だけでなく、社会全体での議論と取り組みが求められるでしょう。

最後に、これらの変化に対応するための法制度や政策が求められます。AIの進化に伴う労働環境の変化に対処するためには、労働法や関連する規制の見直しが必要になるでしょう。

結論として、AIの進化は労働環境に大きな変革をもたらしますが、それに伴う課題にも目を向ける必要があります。適応するためには、労働者は新たなスキルを習得し、企業は透明性と倫理性を重視した運営を行い、社会全体での倫理的な議論と政策の整備が求められます。こうした取り組みを通じて、人間とAIが共存し、豊かで公平な労働環境を創出することが可能になるでしょう。

以上